

市町村名	久米島町							
平成29年度沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート								
事業名	観光客誘客強化事業			事業類型	☒ 産業振興 ☐ 定住促進 ☐ その他			
担当部課名	商工観光課			事業実施(予定)年度	平成29年度			
事業内容	観光誘客を図るため、協議会設立、事業計画策定などDMO発足に向けた取組を行うとともに、海洋深層水を活用した観光体験プログラムの開発等を行う。							
	先進性に係る取組	☐ 自立性 ☒ 官民協働	☐ 政策間連携 ☒ 事業推進主体の形成	☐ 離島活性化を担う人材の確保・育成 ☐ その他				
効果発現年度	☐ 当年度 ☒ 後年度(平成30年度)							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)			29年度					
	予算の状況	(a) 当初予算額	16,976					
		(b) 予算現額	16,976					
		(c) 増減額 (b-a)	0					
		(d) 繰越額	0					
		A. 計 (b+d)	16,976					
	B. 執行済額		16,521					
	うち補助金充当額		13,217					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		97.3%					
予算の状況の説明		当初の計画とおり、島の観光全体を盛り立ていくために関係者で構成するDMOの設立に向けた検討委員会の実施、島の地域資源を活用した魅力的な観光コンテンツの醸成に取り組む等、事業は適正に執行出来た。事業費が455千円不用となったのは、事業の一部において計画より日数を要せず完了出来た業務があり、その直接経費(人件費)の縮減によるものである。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況					
				29年度				
	「久米島海洋ウエルネスプログラム」の開発方針の策定	目 標	実施					
		実 績	実施					
	DMO設立に向けたセミナー、検討委員会の開催	目 標	実施					
実 績		実施						
達成状況説明	○既存の医学系学術論文等を整理し、根拠に基づく海洋深層水の効用を「海洋深層水の健康データベース」として取りまとめた。また、整理した海洋深層水の効用を観光コンテンツに活用していくため、観光商品開発の基本的な方針を策定した。 ○DMOの設立に向けた取組として、先進地のDMO関係者を招聘したセミナー(2回)、町内の観光関係者による検討委員会(5回)を実施した。 ○ウエルネスプログラムの開発方針の策定について、プログラムの構成素材となる「自然」「運動」「食」等の検証を行い、プログラム開発の準備が整った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)			基準値(28年度)	29年度	30年度	31年度	目標値(33年度)
	入域観光客数	目 標			-	120,000人以上	-	-
		実 績		111,509人	109,742人	103,309人		
	(参考指標) 海洋深層水を活用した新体験プログラムへの参加者数	目 標			-	-	-	600人以上
		実 績		-	-	-		
進捗状況説明	○DMO設立及び海洋深層水を活用した観光誘客による効果は平成30年度に発現することから、本事業の効果は平成30年度の入域観光客数で計測することとした。なお、平成29年度の入域観光客数は109,742人であった。 ○今年度整理した観光商品開発の基本的な方針に基づき、次年度以降に海洋深層水を活用した観光誘客のための体験プログラムを開発することから、当該プログラムへの参加者数を指標として設定して取り組む。							

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	○海洋深層水を活用した観光商品造成にあたっては、市場ニーズを的確に捉えたプログラムとして具現化するとともに、プログラムを提供する人材（インストラクター等）の育成も必要である。 ○DMO設立に合わせ、運営を担う組織形成やコア人材の確保も重要となる。	○市場ニーズを正確に調査・分析し、広く受け入れられ、多くの誘客が可能な観光商品となるよう、多種多様なプログラムを造成する。併せて、プログラムを実践する人材の育成に取り組む。 ○運営を担う組織形成や中核人材の確保・育成も重点的に取り組む。
今後の取り組み方針		
○海洋深層水の効用を「美容・アンチエイジング効果」、「健康長寿・ダイエット効果」、「癒し・メンタルヘルス効果」の3分野に分類し、それぞれの分野ごとに体験プログラムを造成する。なお、プログラムの造成にあたっては、モニターツアー等を行うことで、市場ニーズに合致したプログラムとなるよう留意して取り組む。また、プログラム開発に併せて、各プログラムを提供する人材の育成・確保方法についても検討する。 ○DMO設立に向け着実に取り組みを進め、地域観光全体を牽引し、盛り上げる組織とする。		

資金の流れ （資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>補助対象事業費</th><th>補助金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>補助対象外経費</th></tr> <tr> <td>16,521</td><td>16,521</td><td>13,217</td><td>3,304</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担金	補助対象外経費	16,521	16,521	13,217	3,304	0
総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担金	補助対象外経費										
16,521	16,521	13,217	3,304	0										
久米島町 16,521千円 委託料 9,264千円 国立大学法人 琉球大学 9,264千円 久米島海洋ウェルネスプログラム開発事業業務委託 委託料 7,257千円 (株)玉川・オリエンタルコンサル タンス総合研究所 7,257千円 久米島観光誘客対策事業業務委託														
資金の 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	企画公募等により選定された事業者であり、これまでの事業実績から見ても妥当と考える。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	積算については、2社見積によるものとなっており妥当と考える。											
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	－											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	事業目的を達成する為に必要な費目で予算化しており妥当である。また、予算要求時に財政担当の査定を受けており、かつ、検収時において確認を行い適正であった。											